

本市の地域福祉を取り巻く状況

(1) 各統計データの最新の傾向

以下の各指標について、5年前の現行指針策定時と最新データの双方を確認した結果、概ね各項目とも同様の傾向を示している。

項 目	傾 向
①市内人口、世帯数	人口 <u>減少</u> 、世帯数 <u>増加</u>
②家族形態	核家族世帯は令和2年度に減少するも、単独世帯は <u>増加</u>
③自治会・町内会	加入率の <u>減少</u> 傾向 ※加入世帯数は令和3年度に初めて減少 新型コロナの感染拡大も影響したと考えられる。
④高齢者に関すること	65歳以上高齢者の人口の <u>増加</u> ひとり暮らし高齢者の世帯 <u>増加</u> 夫婦のみの世帯は令和2年度に <u>減少</u>
	要介護・要支援認定者数の <u>増加</u>
	平均寿命の <u>延長</u>
⑤少子化に関すること	出生数の <u>減少</u> 、合計特殊出生率の <u>低下</u>
⑥生活困窮	生活保護世帯数は <u>横ばい</u> 、保護率は <u>ゆるやかな低下</u>
⑦非正規雇用者数	※令和4年度が調査年度であるため、現時点ではデータなし 集計結果が公表され次第確認し、指針に反映する。
⑧虐待・通告	児童及び高齢者虐待の相談・通告件数の <u>増加</u> ※高齢者虐待の通告件数が僅かに減少しているが、明らかな要因なし
⑨障害のある方に関すること	療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳交付数の <u>増加</u> 身体障害者手帳交付数の <u>減少</u>

(2) 各実態調査結果からみる地域福祉課題

ア 孤独・孤立実態調査

本市においては、令和3年4月に孤独・孤立の問題に取り組む全庁横断的な組織であるプロジェクトチームを立ち上げた。孤独・孤立に陥るきっかけや、当事者を取り巻く環境を把握することで、課題が生じる要因を分析し、今後の施策の立案や実施等に生かすことを目的に、令和3年秋に実態調査を実施。

【調査対象】

孤独・孤立に関連する課題に対して支援を実施している団体

142団体から回答

【結果概要】

- 新型コロナの感染拡大の影響を受け、相談件数が増加。
- 自殺対策、生活困窮対策、ひきこもり支援において、相談者の割合が高い。
- 孤独・孤立に陥るきっかけとして、本人の心身に関すること、家庭に関することが9割を超える。

- 解決しない要因は、身近に相談できる者又は場所がなく、心身の不調によるものが多い。
- 問題が表面化しない要因は、必要な情報が行き届いていないことやネットワークが弱い又は弱い、が多い。
- 対応に苦慮をする理由として、課題が複雑化・複合化している。改善には支援団体間での連携強化が必要。

イ ヤングケアラー実態調査

孤独・孤立対策プロジェクトチームに、ヤングケアラーの問題を集中的に検討するための部会を設置。ヤングケアラーを生み出している生活環境等の実態を把握し、その家庭に必要とされている支援を検証、また、支援者（団体）等について、ヤングケアラーに対する支援の必要性の意識喚起につなげる目的で令和3年夏に実態調査を実施。

【調査対象】

中高生（18歳以下の児童）、学校、ひとり親世帯、支援者

【結果概要】

- 中高生本人の認識を含め、ヤングケアラー自体の社会的認知度の低さや施策の認知度が低いことが課題であることが分かった。
- 支援者への調査では、既存の施策を活用できることをヤングケアラーやその家族に伝えることの必要性が明らかになった。

ウ 地域社会の暮らしに関する世論調査（政令指定都市）

令和2年秋に内閣府により実施された「地域社会の暮らしに関する世論調査」の結果を分析し、地域福祉に対する意識の変化を確認した。

【調査対象】

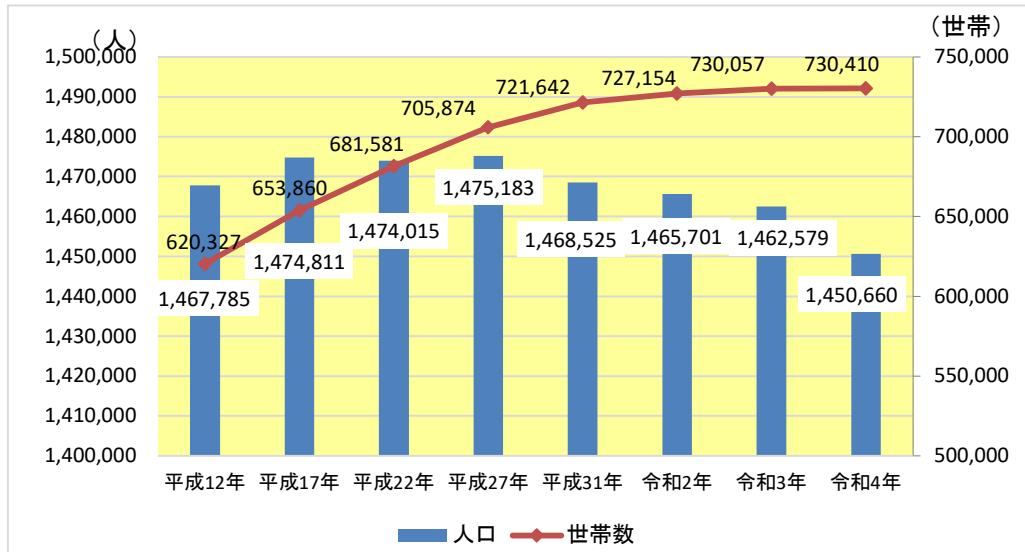
全国18歳以上の日本国籍を有する者

【結果概要】

- 地域での暮らしに対する満足度… 満足：86.2%、不満：12.7%
 - 新型コロナの影響を受け重要と意識するようになったこと
 - ・健康や体調の管理の他、家族とのつながりを挙げた者：48.2%
 - ・知人・友人とのつながりを挙げた者：27.4%
 - 地域における将来の生活環境に対する不安なこと
 - ・「地域の担い手（若者、町内会など）の減少」を挙げた者：31.1%と高い
 - ・「地域内外の人が集まる交流場所の減少」を挙げた者：10%程度に
 - 地域における生活環境に関して行政が力を入れるべき施策
 - ・「地域の担い手（若者、町内会など）の育成・確保」を挙げた者：26.5%程度
 - ・「地域内外の人が集まる交流場所の整備」を挙げた者：14%程度
- ⇒ 以上から、つながりの低下、担い手の不足が地域の課題意識として挙げられる。

各統計データ

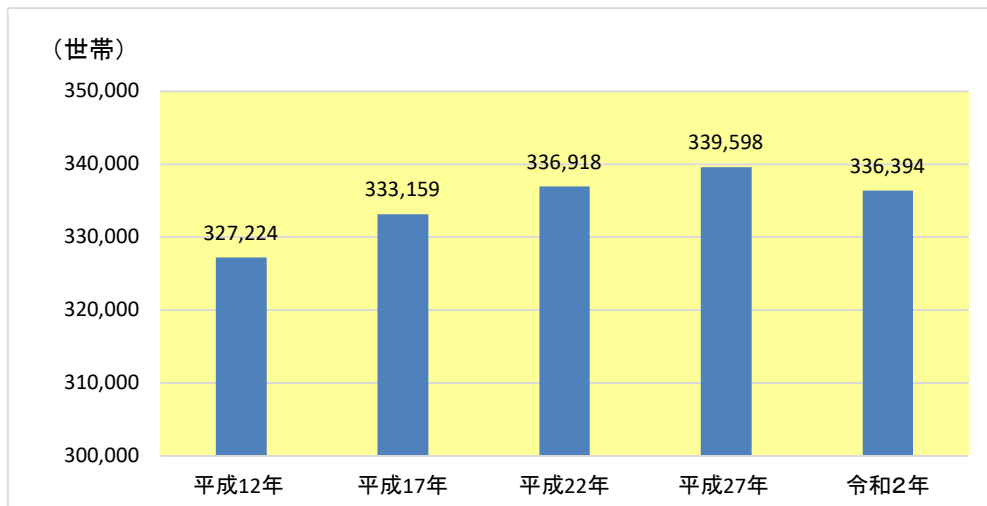
①市内人口、世帯数



※ 資料:平成12～27年…国勢調査、平成31年～令和4年…令和2年度国勢調査の結果をもとにした1月1日時点推計

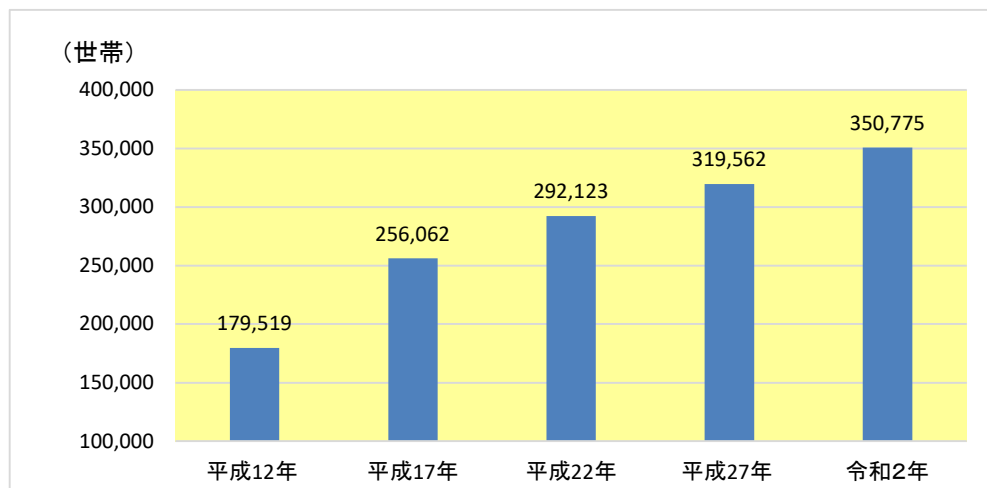
②家族形態に関するデータ

<核家族世帯>



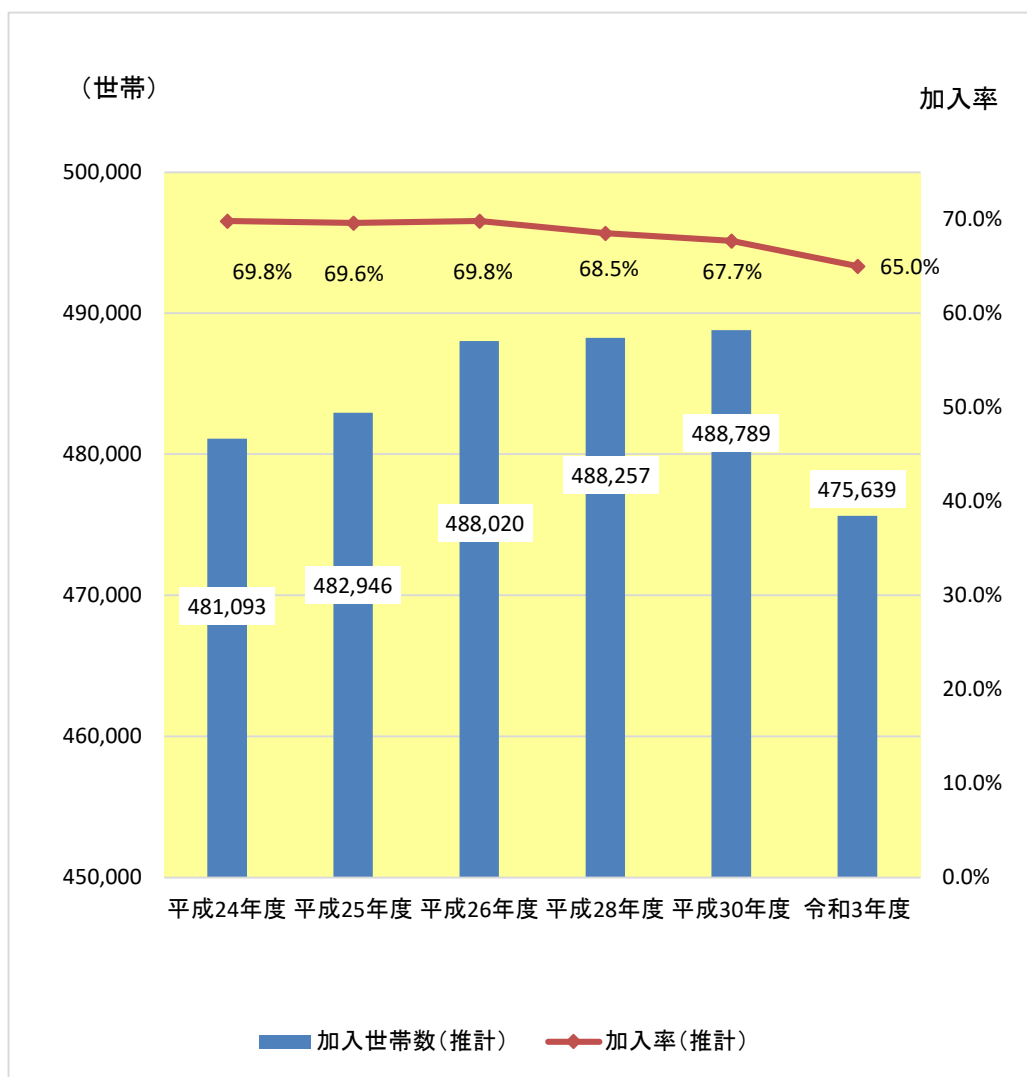
※資料:国勢調査

<単独世帯>



※資料:国勢調査

③自治会・町内会に関するデータ

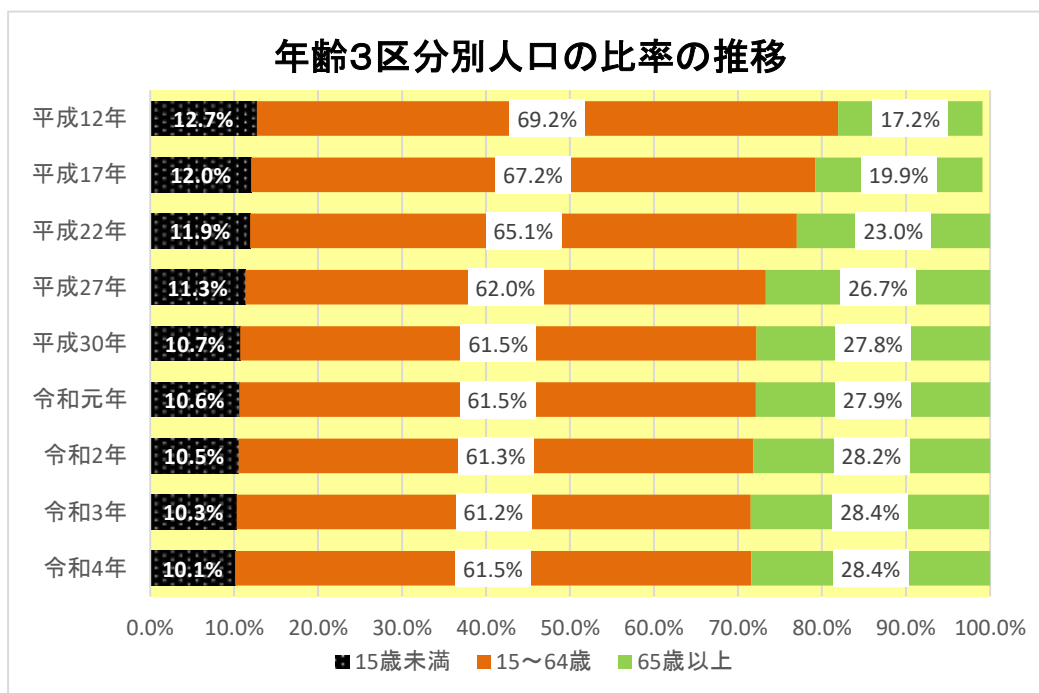


※資料: 令和3年度 自治会・町内会アンケート 報告書

京都市内で自治会や町内会など地域団体に加入している世帯数が平成24年度の調査開始以来、初めて減少した。
原因としては、人口減少、地域に対する考え方や価値観の多様化、新型コロナの感染拡大も影響したと考えられる。

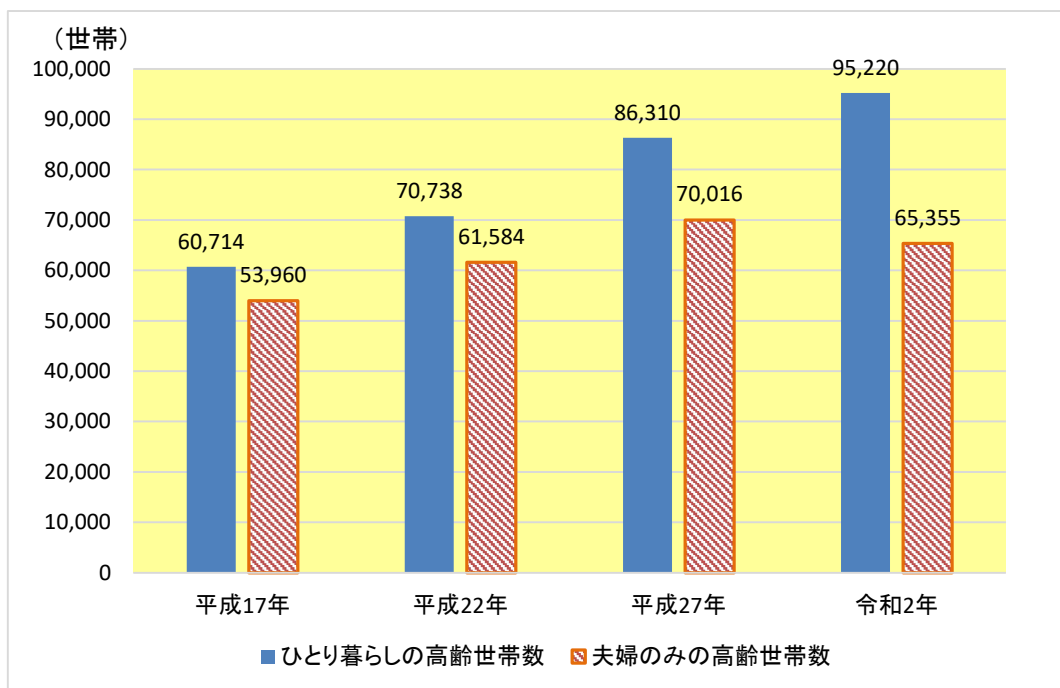
④高齢者に関すること

<65歳以上高齢者の人口>



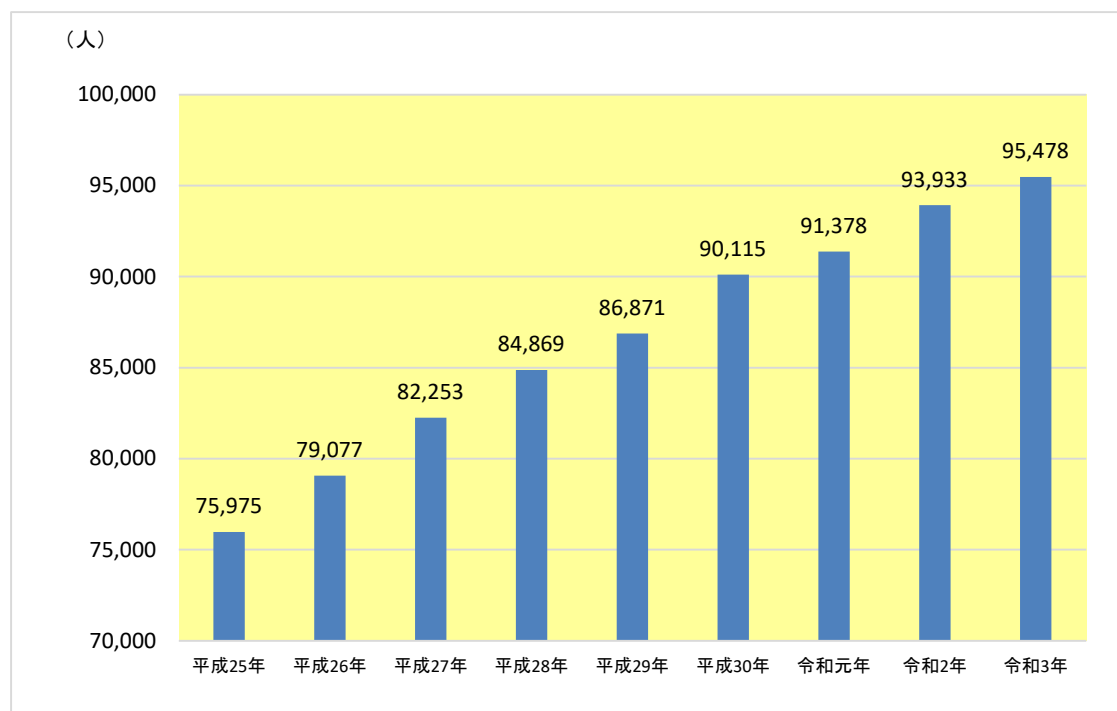
※ 資料：平成12～27年…国勢調査、平成30年～令和4年…令和2年国勢調査の結果をもとにした10月1日時点推計値

<65歳以上のひとり暮らし高齢世帯及び高齢夫婦世帯数>



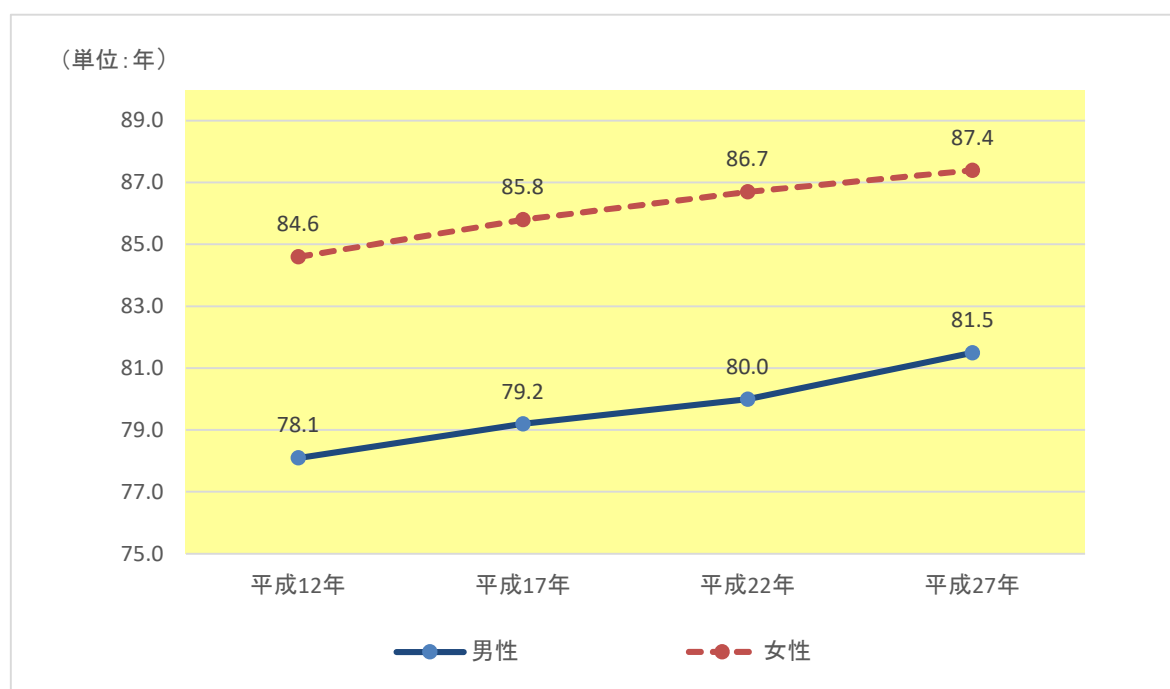
※資料：国勢調査

<要支援・要介護認定者数の推移>



※ 資料:京都市保健福祉局介護ケア推進課

<男女別平均寿命>



※ 資料:厚生労働省平成27年市区町村生命表 (最新)

＜男女別平均寿命（最新）＞

※厚労省の最新の統計資料がないため、京都市の資料を参照

生命表の概況

生命表は、死亡状況が作成基礎年次以後不変であると仮定し、一定期間におけるある人口集団についての死亡秩序を、死亡率、生存数、定常人口、平均余命等の関数で示したものである。

各関数の意味は次のとおりである。

死亡率 ($n q x$) : ちょうど x 歳に達したものが $x + n$ 歳に達しないで死亡する確率を、 x 歳以上 $x + n$ 歳未満における死亡率といい $n q x$ で表す。

生存数 ($l x$) : 10万人の出生者が、上記の死亡率にしたがって死亡減少していくと考えた場合に、 x 歳まで生き残ると期待される者の数を x 歳における生存数という。

死亡数 ($n d x$) : x 歳における生存数 $l x$ 人のうち、 $x + n$ 歳に達しないで死亡すると期待される者の数を x 歳以上 $x + n$ 歳未満における死亡数といい $n d x$ で表す。

定常人口 : 毎年10万人の出生が年間を通じてまんべんなくあったとして、($n L x, T x$) これらの者が上記の死亡率にしたがって死亡すると仮定すると、究極において一定の人口集団が得られる。この集団の x 歳以上 $x + n$ 歳未満の人口を x 歳から $x + n$ 歳における定常人口といい、 $n L x$ で表す。
また、 $T x$ は、 x 歳の生存数 $l x$ 人について、これらの各々が x 歳以降死亡に至るまでの生存数の和、または、上記の人口集団における x 歳以上の人口である。

平均余命 : x 歳の生存数 $l x$ について、これらの者の x 歳以降の生存年数の平均を平均余命といい、0歳の平均余命を特に平均寿命と呼んでいる。

(1) 京都市の平均寿命

令和2年の京都市の平均寿命（0歳の平均余命）は男82.99歳、女88.93歳となっており、昨年と比べると男の平均寿命は0.2歳長くなり、女の平均寿命は0.16歳短くなっている。男女の平均寿命の格差は5.94歳で、昨年より0.36歳小さくなっている。

平均寿命の年次推移をみると、過去10年間に男で2.99歳長くなり、女で2.23歳長くなっており、過去20年間では男で4.89歳、女で4.33歳長くなっている（図1）。

(2) 特定年齢階級までの生存数

令和2年の京都市の簡易生命表では、65歳の年齢階級での生存数は男90,534で女95,334であるが、これは10万人出生したうちで、男で90.5%、女で95.3%が65歳の年齢階級まで生存することを示している。同様に男の66.5%、女の83.6%が80歳まで生存することとなっている。

年次推移では、40歳まで生存する者の割合と比べて、80歳まで生存する者の割合の伸びが大きく、昭和50年と比較してみると、男が約1.8倍、女が約1.6倍に増加、昭和40年では男で約2.7倍、女で約2.0倍に増加している（表1）。

図1 平均寿命の年次推移

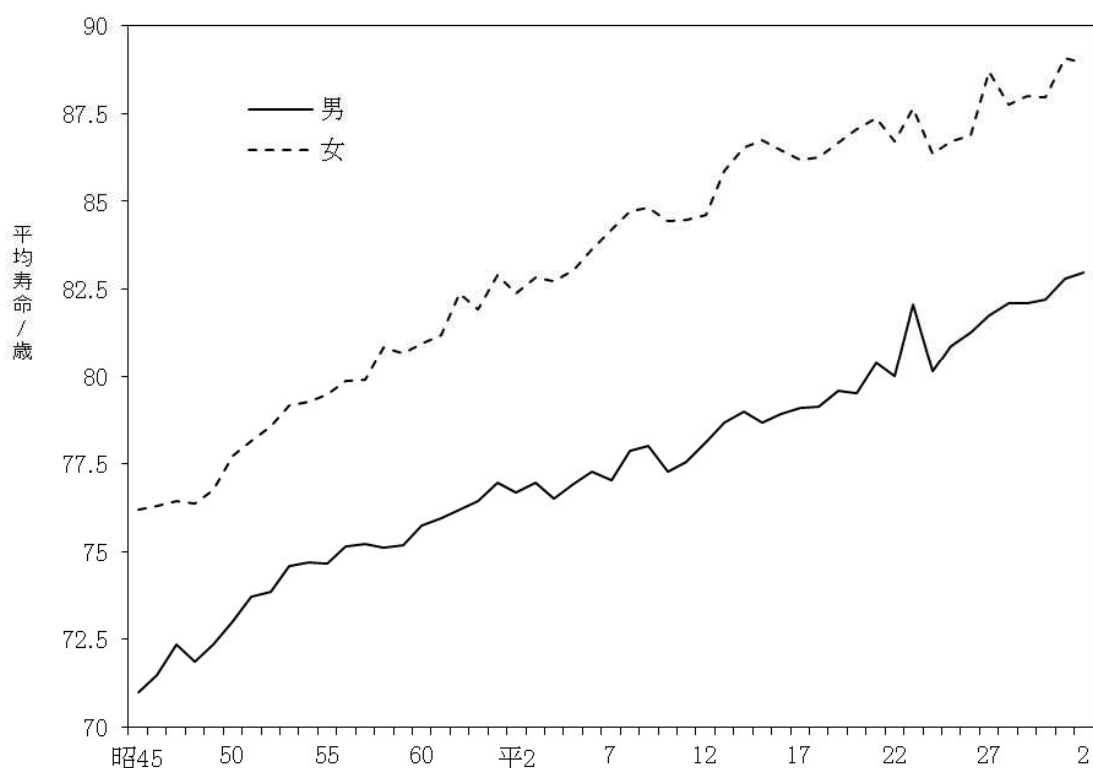
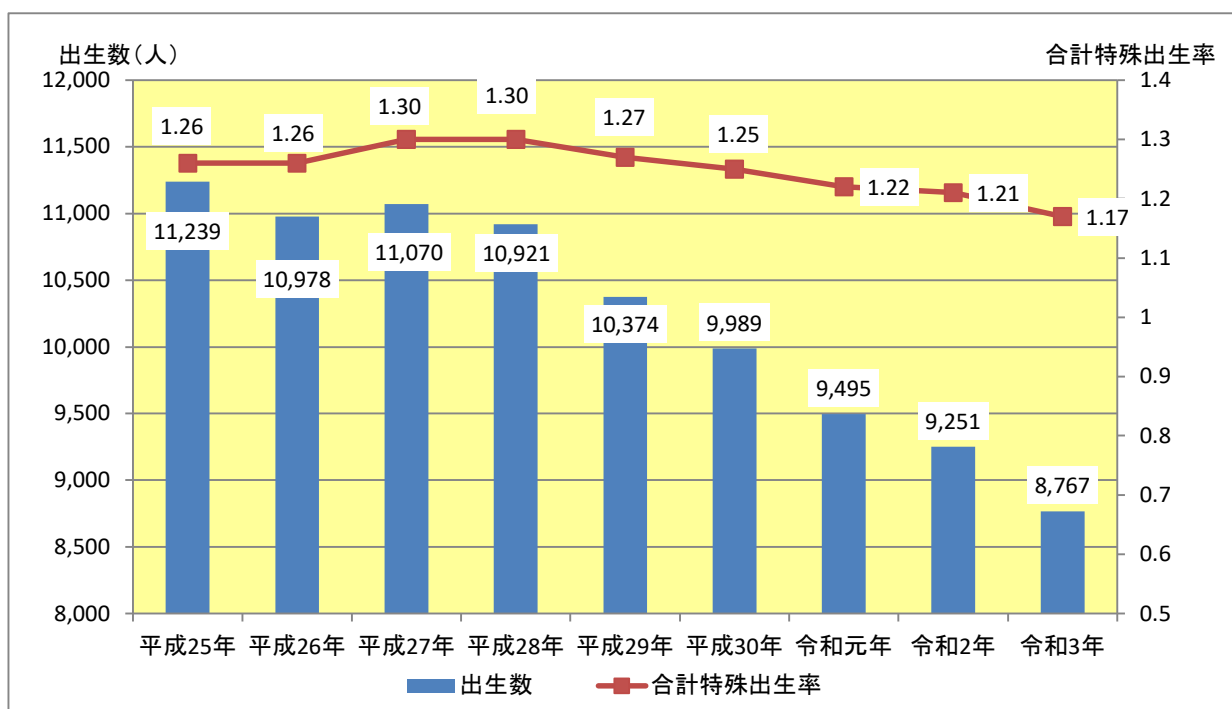


表1 特定年齢階級まで生存する者の割合

(%)

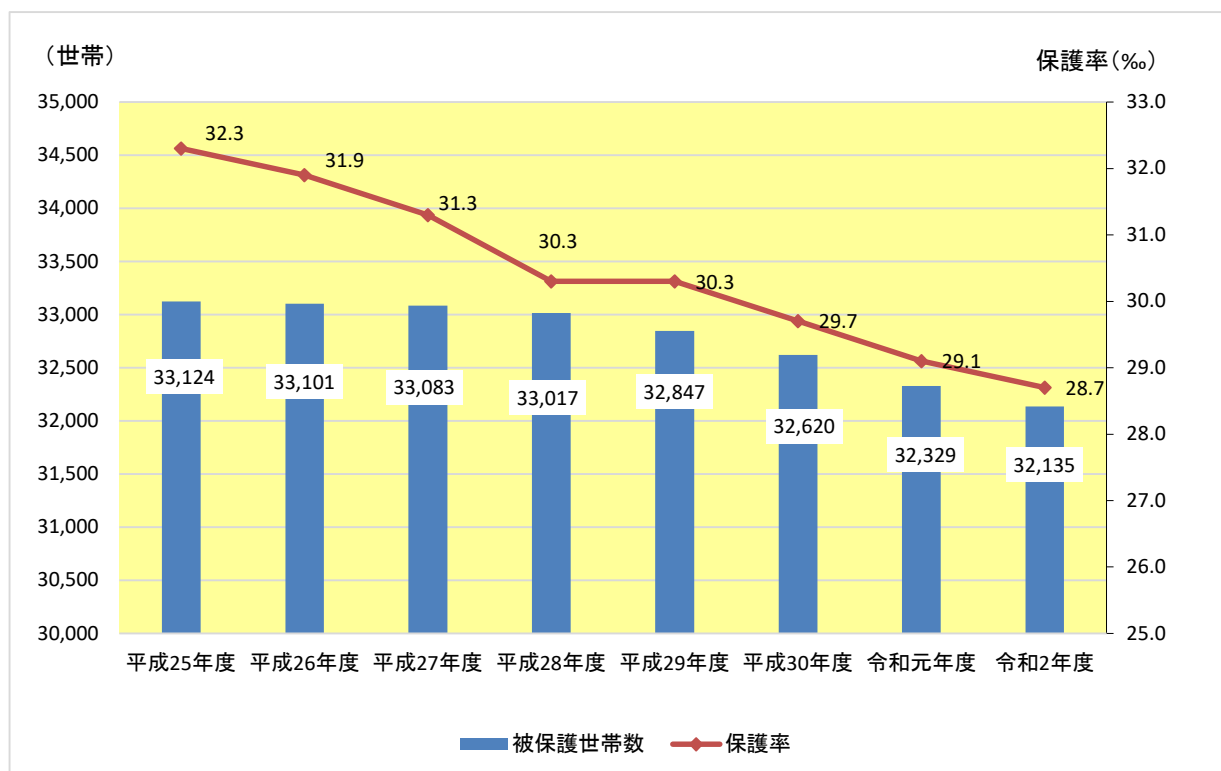
年齢階級	男			女		
	昭和40	昭和50	令和2	昭和40	昭和50	令和2
40歳	94.0	96.1	98.6	95.8	97.3	99.3
65	72.3	80.6	90.5	81.6	87.1	95.3
80	24.5	36.9	66.5	41.7	53.4	83.6

⑤少子化に関するデータ



※ 資料:京都市統計ポータル

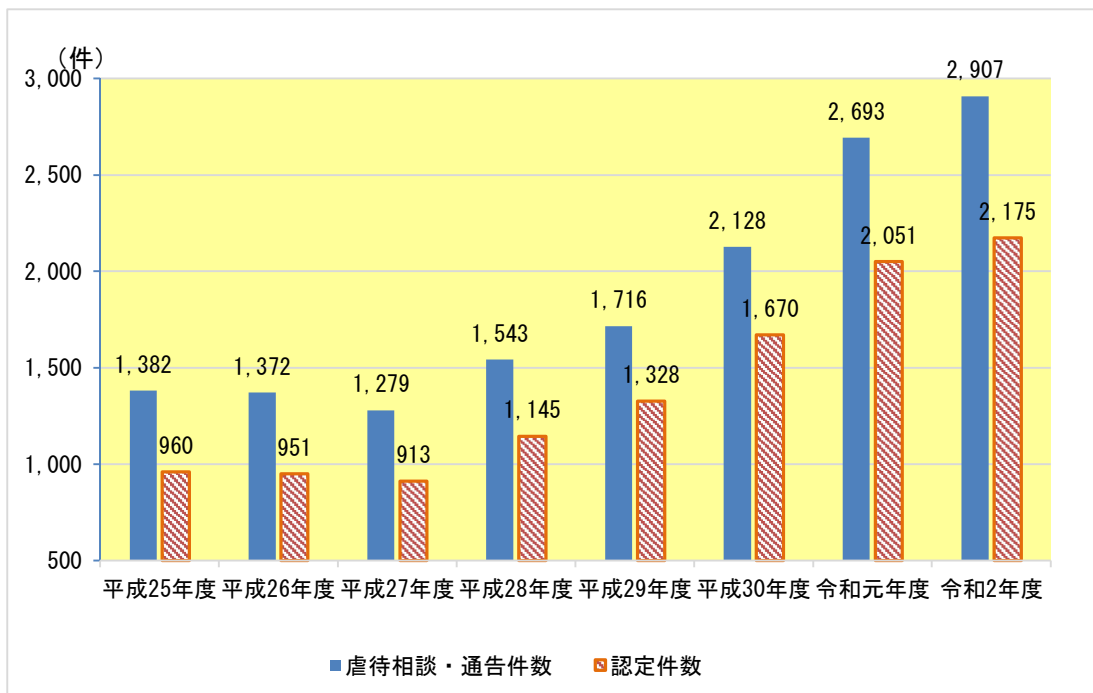
⑥生活保護に関するデータ



※ 資料:京都市統計書

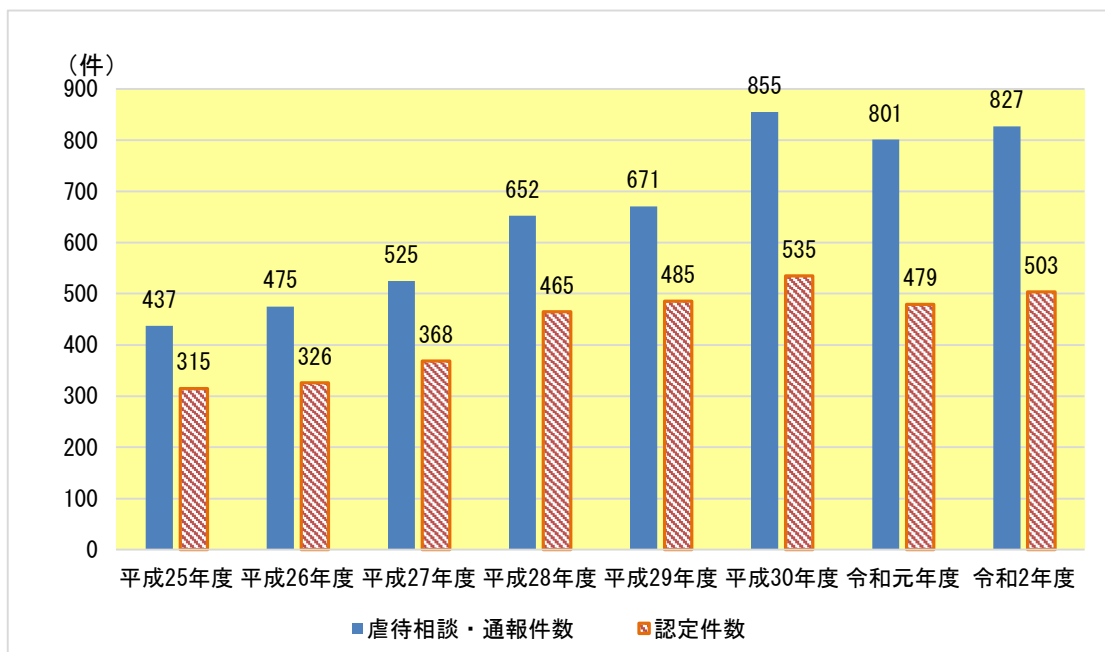
⑧虐待・通告に関するデータ

<児童虐待>



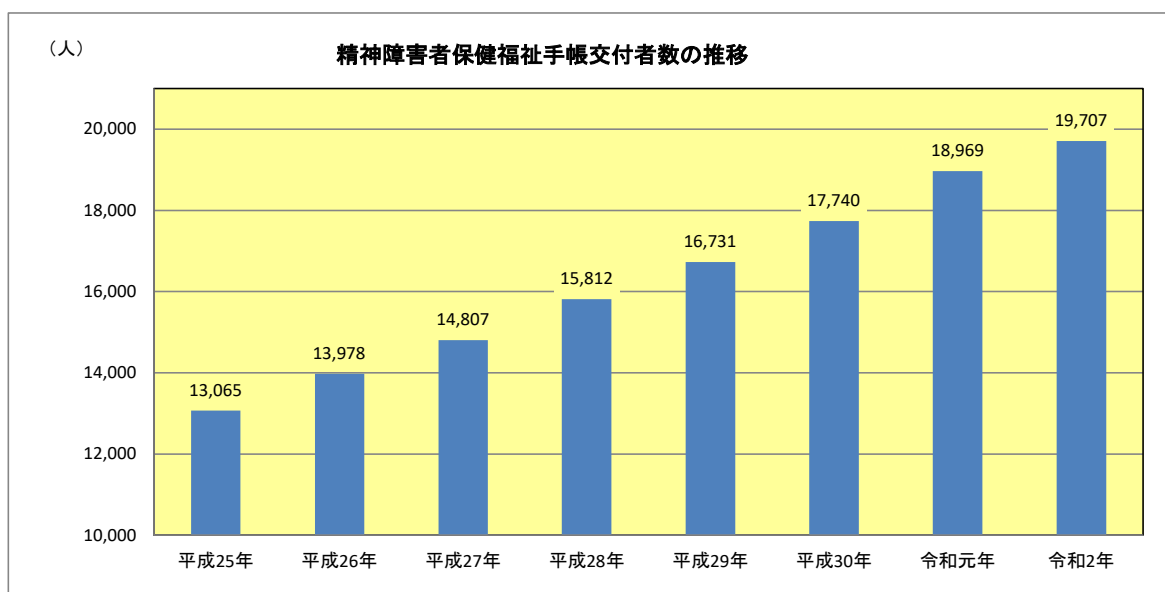
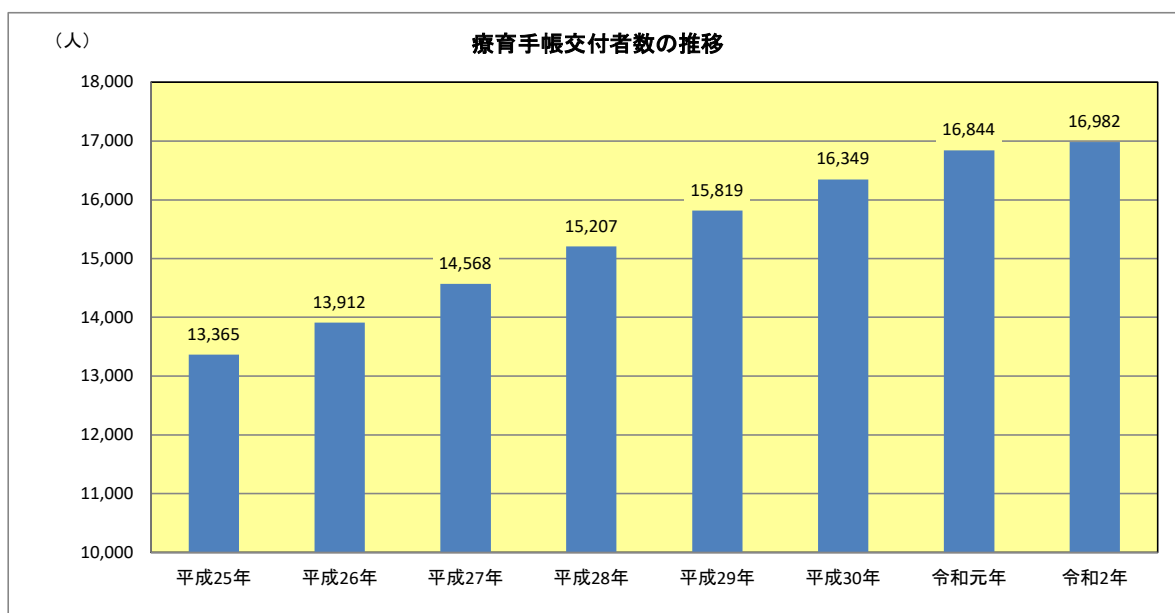
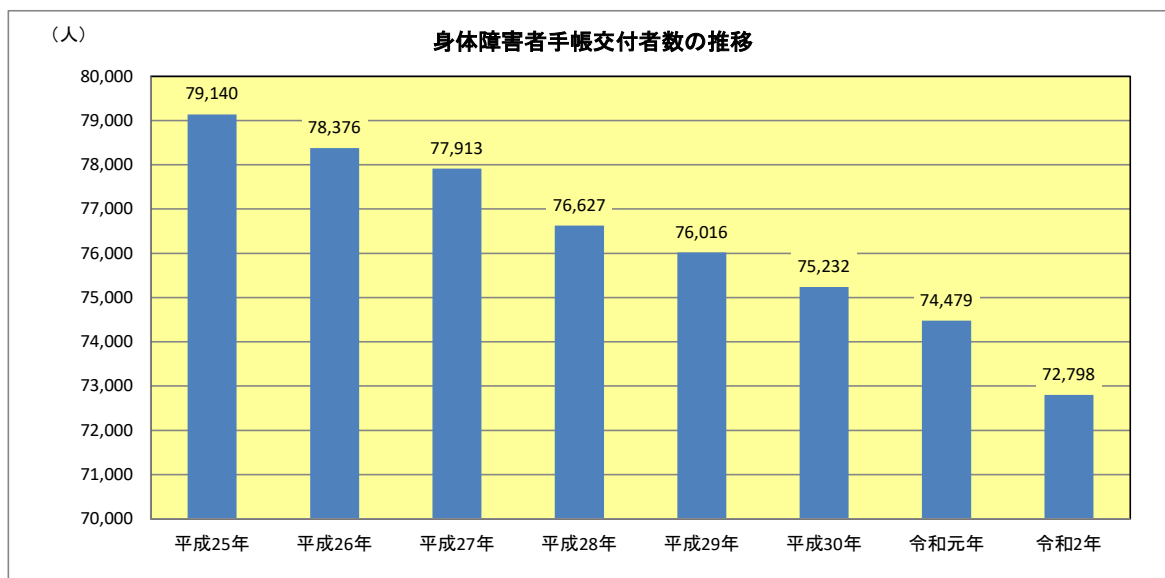
※資料:京都市情報館(子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課)

<高齢者虐待>



※ 資料:京都市保健福祉局介護ケア推進課

⑨障害のある方に関するデータ



※ 資料:京都市統計書